

喜多方市学校施設長寿命化計画【概要版】

■学校施設長寿命化計画の背景・目的

本市の学校施設は高度経済成長期に集中して改築・新築工事が行われました。従来のように建築後 40 年程度で建替えを行う場合、市内学校施設の約 6 割が既に建替えのタイミングを迎えています。厳しい財政状況の中で、効率的かつ効果的に施設整備を進めるためには、コストを抑えながら建物を良い状態で長く使い続ける「長寿命化改修」への転換が求められています。

本計画の目的は、学校施設の抱える様々な課題や児童生徒数の将来推移、社会情勢の変化等を踏まえつつ、未来を担う子どもたちに相応しい教育環境を確保するための施設整備方針、及び各学校施設の老朽化状況や本市の財政状況を踏まえた実行性のある学校施設整備中長期年次計画を策定する点にあります。

計画期間は、上位計画である「喜多方市公共施設等総合管理計画 個別施設計画」に合わせて 2026（令和 8）年度から 2046（令和 28）年度までの 21 年間とします。

長寿命化改修とは

老朽化した建物について、物理的な不具合を直し建物の耐久性を高めることに加え、現在の学校に求められている水準まで建物の機能や性能を引き上げる改修を行うこと。

① 機能向上・教育環境の確保

- 非構造部材（天井材、外装材、設備機器 等）の耐震化を含めた建物の安全性確保
- 高耐久・長寿命な建材・機器等を用いた建物の長寿命化（良い状態で長く使い続ける）
- 老朽化した水道・電気・ガス等のライフライン更新
- 省エネ化・バリアフリー化・トイレ改修・ICT 環境整備等による教育環境の向上
- 構造躯体を残して全面改修することで建替え同等の教育環境の確保が可能

② 工事費用の縮減

- 建替えと比較して構造躯体（柱や梁）の工事が大幅に減少するため、工事費用が 4 割程度縮減可能
- 排出する廃棄物が少なく、コスト削減が可能（廃棄物処理にかかる環境負荷も少ない）



多様な学習活動が展開できる空間



地域の人たちと連携・協働する共創空間



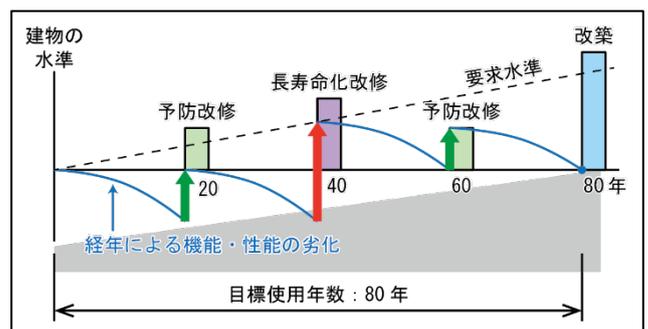
スタジオ機能やラウンジのある執務空間

『新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 最終報告（令和 4 年 3 月、文部科学省）』

●長寿命化イメージ

理想的な改修周期としては各建材や設備配管等の耐用年数を迎える竣工後 20 年おきに改修を行うこととし、築 40 年目に長寿命化改修として『機能回復＋機能向上』を図るのが理想的とされています。

予防保全的な改修の実施により、機能や性能の低下を長期間放置することなく、学校に求められている水準まで建物の機能や性能を引き上げる機会を得ることが出来るというメリットもあります。

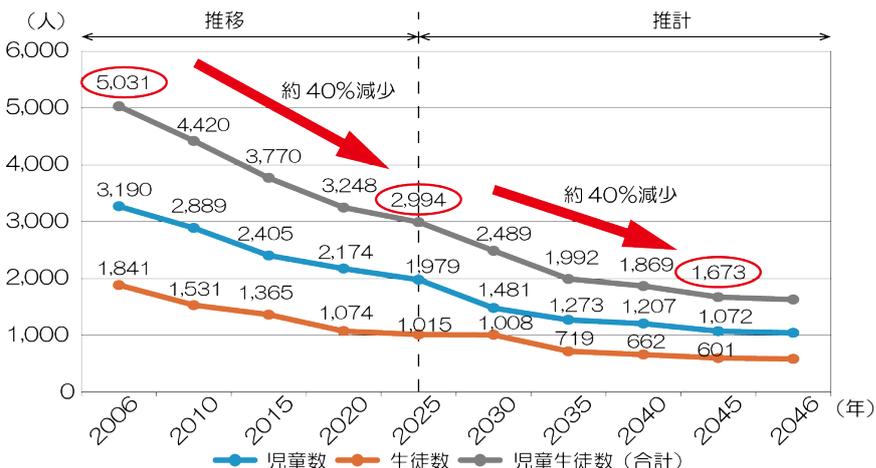


長寿命化の整備イメージ

■学校施設の現状と課題

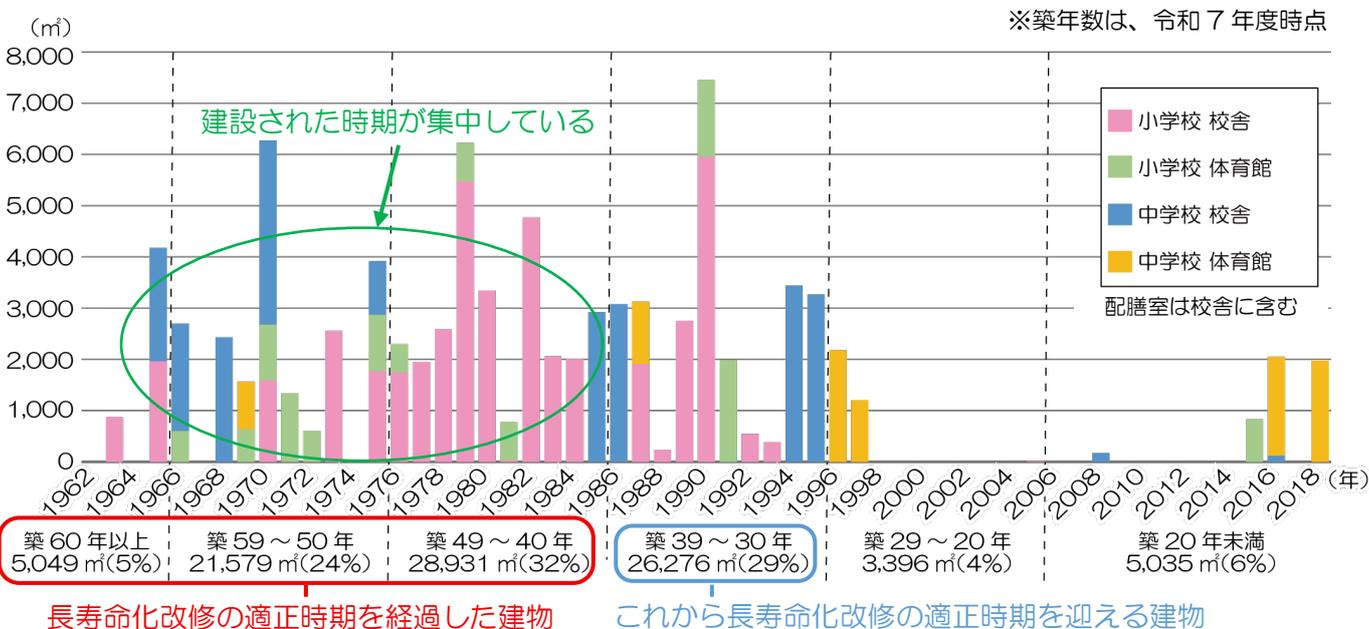
●学校を取り巻く環境の変化

2006（平成18）年度から2025年度までの児童生徒数の推移、2026年度以降の児童生徒数の推計を示します。2006年度の5,031人に対して2025年度時点では2,994人となっており、児童生徒数が19年間で約40%減少しています。また、2045年度には、1,673人（推計）となり、2025年現在から20年間で約40%減少する見込みです。



●長寿命化計画の対象施設

本計画の対象となる小学校16校、中学校6校（会北中学校は除く）の延床面積（対象は校舎・体育館・配膳室・給食室・食堂）を築年別で集計すると下のグラフのようになります。



●老朽化状況の実態

「学校施設の長寿命化計画の見直しに向けたコスト試算等に係る解説書」（以下「コスト試算等に係る解説書」という。）の躯体以外の劣化状況の把握方法に則り、目視・触診により調査しました。調査対象は、5つの項目①屋根・屋上、②外壁、③内部仕上、④電気設備、⑤機械設備に分かれています。

評価は、1箇所の劣化事象ではなく、全体を総合的に判断します。調査では、棟ごと部位別にA～Dで評価を行います。「コスト試算等に係る解説書」においては、「健全度の点数に関わらずC、Dの部位は修繕・改修が必要」と記載されており、本市の対象施設においてC・D評価となった棟の割合は下記のとおりです。

評価\部位	①屋根・屋上	②外壁	③内部仕上	④電気設備	⑤機械設備
A	27	10	9	16	6
B	19	37	18	15	18
C	17	17	32	33	40
D	1	0	5	0	0
計	64	64	64	64	64
CとDの割合	18/64 (28%)	17/64 (27%)	37/64 (58%)	33/64 (52%)	40/64 (63%)

■学校施設の目指すべき姿

「学びを支える環境づくり」、「安全・安心・快適な教育環境の整備（人や環境にやさしく利用しやすい学校づくり）」、「地域と共にある学校」の3つの観点から本計画における学校施設の目指すべき姿及び整備水準を策定しました。

■目標使用年数と改修周期

目標使用年数は、長寿命化改修を行う建物を80年、長寿命化改修が適さない建物を60年とします。目標使用年数まで建物を使用するために、3つの改修周期を設定し長寿命化の実実施計画を策定します。

	築20年	…	築40年	…	築50年	…	築60年	…	築70年	…	築80年
①一般的な改修周期 【築40年未満の棟を対象】	予防改修		長寿命化改修				予防改修				改築
②一般的な改修周期から 少し遅らせる改修周期 【築40年以上築50年 未満の棟を対象】					長寿命化改修				予防改修		改築
③長寿命化改修対象外 【築50年以上の棟を対象】							維持修繕		改築		

改築までは適宜維持修繕で対応

■学校施設整備の基本的な方針

●工事の実施方法

学校施設は、増改築を繰り返している場合が多く、棟ごとに築年数・健全度が異なります。本計画では工期短縮等による共通仮設費等の削減のため、長寿命化改修・予防改修・改築は一度で全棟の工事を行うことを基本とします。

工期は長寿命化改修工事を1年、改築工事を3年（解体工事を含む）と設定します。使わなくなった学校を仮校舎として改修し活用する等、子どもたちの安全と工事の効率を重視した整備スケジュールとすることを検討します。

●グループ分け

築年数や構造躯体の健全度評価によって整備手法が変わるため、3グループに分類しました。Aグループ・Bグループは改築、Cグループは整備スケジュール策定時点（2033年度）での築年数により長寿命化改修又は改築とします。

Aグループ	Bグループ	Cグループ
<ul style="list-style-type: none"> ・築60年以上 ・構造躯体「要調査」 	<ul style="list-style-type: none"> ・築50年以上築60年未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・築50年未満
関柴小学校 熱塩加納小学校 山都小学校 第一中学校（校舎棟） 第三中学校（校舎棟）	第一小学校 松山小学校 上三宮小学校 第三小学校 豊川小学校 慶徳小学校 塩川小学校 姥堂小学校 駒形小学校 塩川中学校	第二小学校 熊倉小学校 堂島小学校 高郷小学校 第一中学校（体育館） 第二中学校 第三中学校（体育館）

※統合予定の会北中学校、山都中学校、高郷中学校については、グループ分けをしていません。

■長寿命化の実施計画

「適正規模適正配置第2次実施計画」の検討期間である2030年度までを短期整備スケジュールとし、2031年度以降は中長期整備スケジュールとして計画します。各整備計画を進めるにあたっては、中期財政計画の見直しを行いながら改修工事等を進めます。

年度																				
2026	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
短期					中長期															
維持修繕					適正規模適正配置第2次実施計画策定後に計画策定															

短期整備スケジュールは、老朽化状況の実態調査で悪い評価となった部位の改修や、LED照明改修等必要となる維持修繕工事を計画しています。

部位 / 年度	2026	2027	2028	2029	2030
屋根・屋上		第三小体育館	上三宮小体育館	駒形小体育館	関柴小体育館
LED改修	小学校体育館	小学校体育館	小学校校舎	小・中学校校舎	
受変電設備改修	姥堂小	第三小	関柴小	駒形小	
空調設備改修	第一小 熊倉小	第二小 関柴小	堂島小 高郷小	松山小 上三宮小 第一中	山都小 第三中

※施設状況によって改修計画が変更となる場合もあります。

「適正規模適正配置第2次実施計画」を策定後、グループ分けを基に長寿命化計画の見直しを行います。その際、統合する学校の築年数や老朽化状況の実態調査をもとに改修手法の検討を行い、本計画に反映します。上位計画等の見直しがあった場合、整備スケジュールも合わせて見直しを行います。現在は、「適正規模適正配置第2次実施計画」と建物の設計期間を考慮し、2033年度を整備開始と想定しています。

※現在の国庫負担・補助事業は、他の公共施設との複合化や学校統合を併せて学校整備を行うことに対し、有利な補助となっています。

期間/年度	～2030年	2031年	2032年	2033年 築年数基準年	2034年	2035年～
適正規模適正配置第2次実施計画検討期間						
適正規模適正配置第2次実施計画実施期間						
設計期間		設計開始				
工事期間				整備開始予定		

■長寿命化計画の継続的な運用方針

学校施設の長寿命化にあたっては、定期的な老朽化状況調査により、逐次整備状況を記録・更新し、予防保全的な維持管理を進めることが重要となります。そのため、情報を一元管理できるよう学校施設の概要や各点検記録、改修履歴等を集約した学校カルテを作成し、長寿命化計画を推進します。また、上位の関連する計画の見直しが行われた場合には、併せて本計画も見直しを行います。